

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クジラくらぶ		
○保護者評価実施期間	R 8年 1月 9日		～ R 8年 1月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	R 8年 1月 9日		～ R 8年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R 8年 2月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士4名、児童指導員4名、看護職員1名を配置しており、児童指導員の中には心理学を修了した職員もいる。それぞれの視点から見た意見を取り入れながら支援計画を作成し、評価を行っている。 また、看護師が常駐していることで、急な体調不良にも落ち着いて対応できている。	職員間で利用者の情報を共有し、意見交換しながら子ども一人ひとりの支援に取り組んでいる。	重症心身障害児に対応するために作業療法士や、言語聴覚士などの専門職員の採用を検討したい。
2	利用者の必要に応じて活動の場や内容を選ぶことができる。 天候の悪い日など施設外に出なくても身体を動かす活動も可能であり、静かに過ごせる部屋もある。	中庭を活用して体を動かす活動ができ、夏には安全な環境でプールを楽しめる。 学校休業日など活動時間が長い日には感覚統合やサーキットでの体幹活動、静かに過ごしたい利用者には、落ち着いた部屋でのスヌーズレンやプラネタリウムなどリラックスする時間も大事にしている。	新たな活動内容を充実させるため、職員間でアイデアを出し合っている。
3	四季を感じることを大事にし、季節に合わせた年間行事計画を行っている。	年度初めに年間行事計画を作成し、保護者へ配布している。 季節折々の行事体験や制作、絵本の読み聞かせ等で伝える。	行事内容をさらにわかりやすく伝えるため室内装飾などに工夫をしていきたい。 視覚支援を取り入れた展示等。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	全体での会議が少ない。 利用者一人ひとりの支援会議がじっくりとできていない。	職員間で昼休み等に意見を交わすことは多いが、会議としての時間が取れていない。	月1回の職員のミーティング時にケース会議を実施していきたい。
2	関係機関との連携が弱い。	学校や相談員、他の放デイ事業所等との情報共有が不十分。	支援に必要と思われる事は積極的に情報交換していきたい。
3			